

学校法人千葉敬愛学園
千葉敬愛短期大学
機関別評価結果

令和3年3月12日
一般財団法人大学・短期大学基準協会

千葉敬愛短期大学の概要

設置者 学校法人 千葉敬愛学園
理事長 三幣 利夫
学 長 明石 要一
A L O 吉村 真理子
開設年月日 昭和 25 年 4 月 1 日
所在地 千葉県佐倉市山王 1-9

<令和 2 年 5 月 1 日現在>

設置学科及び入学定員（募集停止を除く）

学科	専攻	入学定員
現代子ども学科		200
	合計	200

専攻科及び入学定員（募集停止を除く）

なし

通信教育及び入学定員（募集停止を除く）

なし

機関別評価結果

千葉敬愛短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、令和3年3月12日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

令和元年7月5日付で千葉敬愛短期大学からの申請を受け、本協会は認証評価を行ったところであるが、評価の結果、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

建学の精神は、西郷隆盛の座右の銘「敬天愛人」に基づき、人間の尊厳性と可能性を伸ばし、教育される側一人一人を敬愛することを教育の理念としており、学内外に向けて積極的に表明している。地域連携活動として、「総合子ども学研究所」の「現代子ども学」公開講座や佐倉市との提携事業「夏休み子ども向け公開講座」、県内高等学校との教育提携等を積極的に展開している。近年、三つの方針の一体化を目指した検討を重ね、策定された新たな方針を大学案内やウェブサイト等に掲載し、学内外に表明している。自己点検・評価活動として学外委員を含む千葉敬愛短期大学教育検証会議での検証のほか、企画運営委員会で三つの方針や教学マネジメント等を総合的に点検・評価している。

卒業認定・学位授与の方針は、学習成果である「使命感」、「総合的な子ども理解」、「コミュニケーション・課題解決」の三つの資質・能力を身に付けるとしている。教育課程編成・実施の方針と入学者受入れの方針もこの学習成果に対応し、初等教育コース、保育コースでそれぞれ二つの免許・資格の取得を目指す教育課程を編成している。教養教育の「基礎科目」に建学の精神を学び就職活動の基礎力向上を目的とした必修科目「敬天愛人・キャリアサポートⅠ・Ⅱ」を据え、進路希望に沿った「敬天愛人・キャリアサポートⅢ～Ⅵ」を開設して職業教育の柱としている。アセスメント・ポリシーに示す指標群から在学中の学習成果の獲得状況の推移を把握・測定する仕組みを整え、卒業後の進路先からの評価や卒業生アンケート等も活用している。

学生支援の中心組織としてクラス担任制と2年生によるチューター制度等があり、経済的支援として「長戸路記念奨学金」をはじめ各種の奨学金制度があり、学生生活や学習上の問題等には修学調整会議や学生支援会議が対応している。就職推進委員会は、「就職支援対策講座」を進路別に開設し、きめ細かな支援を行っている。

教員組織は、教育課程編成・実施の方針に基づき編成され、専任教員の職位、採用と昇任等は規程に従って選考されている。教育活動の活性化や質の向上を目的とした「千葉敬愛短期大学学長裁量経費」を設けるほか、学習成果の獲得状況等の結果を踏まえ、教職員全体でFD・SD研修会を実施している。防災対策は学生の防災係を活用した防災訓練を、情報セキュリティ対策では標的型攻撃メールの対応訓練を実施し、防犯対策として通学路

の定期的な防犯パトロールを実施している。校地、校舎の面積は、短期大学設置基準の規定を充足し、講義室、実験・実習室等は、小学校教諭・幼稚園教諭・保育士の養成に対応した施設設備を整えている。近年、図書館と情報センターを統合して「敬愛大学・千葉敬愛短期大学メディアセンター」を開設し、「えほんのもり」を中心としたラーニング・コモンズ等を整備している。学生の成績管理や学生への一斉連絡等を学内外から行う学内情報ポータルサイトを導入し、ICTを活用した授業が円滑に展開されるよう情報担当スタッフを配置している。

財務状況は、学校法人全体で経常収支が過去3年間収入超過となっているが、短期大学部門は過去3年間支出超過である。

理事長は、民間企業での経験を生かし、教育研究体制の整備、人事計画や広報活動の強化等に重点を置きながら学校法人経営を主導しており、理事会も適正に運営している。学長は、大学運営・教育行政の経験と識見を生かし、短期大学の運営にリーダーシップを発揮している。教授会の審議事項は企画運営委員会で調整され、審議機関として適切に運営されている。監事は、学内の内部監査委員会と連携し、各部門での定期監査に立ち会うなど適正に監査を行っており、評議員会も寄附行為に定める諸事項に関して理事長を含め役員の諮問機関として適切に運営されている。教育情報及び財務情報は、ウェブサイト等の「教育情報の公表」や「法人情報の公開」に適切に公表・公開され、学内外の関係者への閲覧に適切に対応している。

2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質保証を図り、短期大学の主体的な改革・改善を支援することにある。そのため、本協会では、短期大学評価基準に従って判定される前述の「機関別評価結果」や後述の「基準別評価結果」に加えて、短期大学の個性を尊重し、その向上・充実を図る観点から以下の見解を持つ。

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

本協会は以下の事項について、高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らし、優れた成果をあげている試みや特長的な試みと考える。

基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果

[テーマA 建学の精神]

- 新入生の学外オリエンテーションでの学長による「敬天愛人」講座や第3代理事長の著書「野の花」（「敬天愛人」講話集）の感想文の作成、1年次必修科目の「敬天愛人・キャリアサポートⅠ」における建学の精神とキャリア形成とを融合した取組み等を通じて、学生が建学の精神への理解を深める機会を設けている。
- 平成21年度の「総合子ども学研究所」の開設当初から開催している「現代子ども学」公開講座は、子どもを多彩な学問領域から総合的に捉える小学校教諭・幼稚園教諭・保育士の養成に資するとともに、地域住民や教育・保育の現場、学生、教職員が交流し、子どもに関する学びを共有する貴重な機会となっている。

[テーマ C 内部質保証]

- 「使命感」、「総合的な子ども理解」、「コミュニケーション・課題解決」という三つの学習成果の獲得状況を、入学前の基礎学力検査による診断的評価、入学後の「新入生学生生活アンケート」や学年末の「学生の生活及び学修行動調査」、「保育・教職実践演習」での履修カルテ等を通じて量的、質的に把握し、入学時と卒業時の学習成果の獲得状況を詳細に分析し、授業改善に生かしている。

基準Ⅱ 教育課程と学生支援

[テーマ A 教育課程]

- 「教育実習（幼稚園）の手引き」や「保育実習の手引き」は、実習の事前・事後指導に必要な情報や文書の様式等を分かりやすく学生に提示している。実習後に編集している「実習報告集」に指導案の事例や貴重な体験談を多数掲載しており、実習指導に対する丁寧な取組みとなっている。

[テーマ B 学生支援]

- メディアセンターは、施設内の「えほんのもり」に教育・保育実習に役立つ絵本コーナーを設置している。さらに、「ビブリオバトル」や「君にすすめる一冊の本」、「Yomu Yomu 運動」、「読書通帳」、「選書ツアー」等の学生が参画する多彩な企画を立案・実施し、来館者数を飛躍的に増加させている。
- 新入生が短期大学生活を円滑にスタートできるよう、2年生有志からなるチューター制度によるサポート体制を整えロールモデルの形成を確立している。また、年2回の学生会主催の「リーダーズ研修会」もリーダーシップやチームビルディングの資質・能力の獲得に向けて企画・実施されており、短期大学ならではのリーダー養成が機能している。

基準Ⅳ リーダーシップとガバナンス

[テーマ B 学長のリーダーシップ]

- 学長は就任以来、建学の精神「敬天愛人」を教育研究の機軸に据え、年2回の専任教員との個人面談や「2.5教育」と称する新たな入学前教育の提案、「認定絵本土」の導入や佐倉市との包括協定の締結等に強いリーダーシップを発揮している。

(2) 向上・充実のための課題

本協会は以下の事項について、改善を図り、その教育研究活動などの更なる向上・充実に努めることを期待する。なお、本欄の記載事項は、各基準の評価結果（合・否）と連動するものではない。

基準Ⅱ 教育課程と学生支援

[テーマ A 教育課程]

- シラバスにおいて、卒業必修等の科目区分や開講時期、開講期間が明記されていない科目があり、また、「授業のねらいと到達目標」欄では到達目標と学習成果との関連が不明確である。シラバスに掲載する事項の見直しや、学習成果をより具体化し各科目とのつながりを明示する工夫等が望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし

3. 基準別評価結果

以下に、各基準の評価結果（合・否）及び当該基準を合又は否と判定するに至った事由を示す。

基準	評価結果
基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果	合
基準Ⅱ 教育課程と学生支援	合
基準Ⅲ 教育資源と財的資源	合
基準Ⅳ リーダーシップとガバナンス	合

各基準の評価

基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果

西郷隆盛の座右の銘である「敬天愛人」を建学の精神として掲げ、人間の尊厳性と可能性を伸ばし、教育される側一人一人を敬愛することを教育の理念としており、大学案内やウェブサイト、「CAMPUS LIFE」等に掲載して学内外に表明している。建学の精神は、学生には学外オリエンテーションでの学長講話、教職員には「互礼会」等の機会を通じて周知し、建学の精神に基づいた初等教育コース、保育コースにそれぞれ二つの免許・資格が取得できる教育課程を編成し、総合的な子ども理解の推進、コミュニケーションを重視した養成教育を行っている。建学の精神に基づく地域貢献活動として、「総合子ども学研究所」の「現代子ども学」公開講座、佐倉市との提携事業「夏休み子ども向け公開講座」や市民大学「コミュニティカレッジさくら」等に取り組むほか、多数の県内高等学校との教育提携を進めるとともに、「通学合宿」、「学習支援ボランティア」等のボランティア活動を推進してきた。

現代子ども学科の教育目的を明確に定め、「千葉敬愛短期大学教育検証会議」や「系列校連絡会」、「高校教員向け入試説明会」で教学運営状況について外部からの意見を聴取している。また、「使命感」、「総合的な子ども理解」、「コミュニケーション・課題解決」の三つの資質・能力を学習成果とし、「新入生学生生活アンケート」及び「学生の生活及び学修行動調査」を通じて獲得状況を検証している。近年、三つの方針の一体化を目指した検討を重ね、新たに策定した方針を大学案内やウェブサイト等に掲載し、学内外に表明している。

自己点検・評価については規程に基づき自己点検・評価委員会を設置し、自己点検・評価報告書は隔年で作成し、ウェブサイトに公表している。企画運営委員会を毎月開催し、三つの方針や教育課程、教学マネジメント等を総合的に点検・評価している。また、学習成果を査定する手法としてアセスメント・ポリシーを設定し、設定した具体的な指標群に基づき教務委員会が中心となって調査・分析を行い、その結果を教授会に報告している。また、その結果をカリキュラム検討委員会、FD・SD委員会が共有し、教学マネジメントの計画立案やFD・SD研修会の内容に活用している。

基準Ⅱ 教育課程と学生支援

建学の精神「敬天愛人」の理念を理解し、学習成果である「使命感」、「総合的な子ども

理解」、「コミュニケーション・課題解決」の三つの資質・能力を身に付けることを卒業認定・学位授与の方針としている。初等教育コースでは小学校教諭二種免許状及び幼稚園教諭二種免許状、保育コースでは幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格というそれぞれ二つの免許・資格の取得を教育課程編成・実施の方針に位置付けている。この学修を通じて、子どもの発達の連続性や教育・保育の関連性を重視した総合的な子ども理解を目指している。

教養教育である「基礎科目」に小学校・幼稚園教諭、保育士養成課程の必修科目のほか、「敬天愛人」を学び就職活動の基礎力向上を目的とした必修科目「敬天愛人・キャリアサポートⅠ・Ⅱ」を開設し、さらに小学校教員や公務員保育士等の進路希望に沿った選択科目「敬天愛人・キャリアサポートⅢ～Ⅵ」を開設し、職業教育の柱としている。

シラバスにおいて、卒業必修等の科目区分や開講時期、開講期間が明記されていない科目があり、また、「授業のねらいと到達目標」欄では到達目標と学習成果との関連が不明確である。シラバスに掲載する事項の見直しや、学習成果をより具体化し各科目とのつながりを明示する工夫等が望まれる。

入学者受入れの方針として、教育者・保育者を目指す意思や自己管理能力、教育・保育への関心、対人関係能力等を示し、三つの学習成果に対応させている。

学習成果の三つの資質・能力については、アセスメント・ポリシーに示した「学習成果アンケート」、「実習評価」、「実習自己評価」、「保育・教職実践演習 事前・事後評価」等によって在学中の学習成果の獲得状況の推移を把握している。また、学生による授業評価や成績評価分布、出席率や在籍率、複数免許・資格取得率や専門職就職率、各種実習の評価や自己評価等の様々な指標を活用して、学習成果の具体的な獲得状況を測定する仕組みを整えている。卒業生に対する進路先からの評価、卒業後1年以内の卒業生に対するアンケート等から、学習成果を測定、評価し改善に役立てている。

学生による授業評価は、学内情報ポータルサイトで実施し、評価結果と教員による授業改善報告書を公開している。メディアセンターでは、「えほんのもり」を中心としたラーニング・コモンズや学生が参画する多彩な企画を通じて、利用の活性化を図っている。

学生支援の組織としてクラス担任制を設け、学生生活全般の相談に当たるほか、2年生によるチューター制度や学生会主催の「リーダーズ研修会」が実施されている。経済的支援として「長戸路記念奨学金」をはじめ各種奨学金の制度がある。学生生活や学習上の問題等に対して修学調整会議や学生支援会議による早期介入と支援を行っている。就職支援のために就職推進委員会が設けられ、資格取得、就職対策等の支援として「就職支援対策講座」を進路別に開設し、きめ細かなサポートを行っている。

基準Ⅲ 教育資源と財的資源

教育課程編成・実施の方針に基づいて、教員免許状・保育士資格が取得できる教育課程を編成し、教員組織を適切に編制している。専任教員数及び教授数は、短期大学設置基準を充足している。専任教員の職位、採用と昇任、非常勤教員の採用は、規程を定めて運用している。教育活動の活性化や質の向上を目的とした「千葉敬愛短期大学学長裁量経費」を設ける一方、学習成果の獲得状況等の結果を踏まえながら教職員全体でFD・SD研修会

を実施している。

事務組織は、規程により責任体制が明確にされており、学内の教育研究活動を支援できる業務環境を整えている。教職員の就業に関する事項は、学校法人本部の法人運営室が所管し、諸規程に基づき管理している。防災対策は学生の防災係を活用した防災訓練を、情報セキュリティ対策は標的型攻撃メールの対応訓練を実施し、防犯対策として通学路の定期的な防犯パトロールを実施している。

校地、校舎の面積は、短期大学設置基準を充足している。教育課程編成・実施の方針に基づき、講義室、実験・実習室等は、小学校・幼稚園教諭及び保育士の養成に対応した施設設備を整えている。また、ICT教育の進展と学習環境の改善として、電子黒板やタブレット型端末等を整備している。近年、図書館と情報センターを統合して「敬愛大学・千葉敬愛短期大学メディアセンター」とし、ラーニング・コモンズ等を整備している。

学生の出欠及び成績管理や学生への一斉連絡等を学内外から行う学内情報ポータルサイトを導入し、ICTを活用した授業が円滑に展開されるよう情報担当スタッフを配置し、学生や教職員からの質問や機器の不具合等に対応している。

財務状況は、学校法人全体で経常収支が過去3年間収入超過となっているが、短期大学部門は過去3年間支出超過である。「ビジョン・中期計画'24」を策定して、改善に努めている。

公認会計士による監査結果に適切に対応している。また、学長が全教職員に対する財務状況の説明会を実施し、経営情報の公開と危機意識の共有を図っている。

基準Ⅳ リーダーシップとガバナンス

理事長は学校法人の代表者として、建学の精神や教育目的を理解し、その業務にリーダーシップを発揮しており、民間企業での経験を学校法人経営に生かし、教育研究体制の整備、入学定員の確保、人事計画や広報活動の強化に重点を置きつつ、短期大学経営を主導している。理事会は、寄附行為に基づいて適切に運営されており、また毎月、常務理事会を開催し、学校法人業務の執行、管理等を行っている。

学長は、千葉敬愛短期大学学長選考規程に基づいて選考され、大学運営・教育行政に関する経験と識見を生かしながら、建学の精神「敬天愛人」を教育研究の機軸に据え、教職員の意見を十分に聞き、短期大学の運営にリーダーシップを発揮している。学長は、学生の入学・卒業・学位の授与その他教育研究上の重要事項について、教授会の意見を聴取している。教授会の審議事項は、各委員会等を経て企画運営委員会で調整されており、審議機関として教授会は適切に運営されている。

監事は、学校法人の業務、財産の状況及び理事の業務執行状況について学内の内部監査委員会と連携し、各部門での定期監査に立ち会うなど適宜監査を実施しており、理事会、評議員会等に出席し、意見を述べている。また監事は、学校法人の業務や財産の状況、理事の業務執行の状況について、毎会計年度、監査報告書を作成し、当該会計年度終了後2か月以内に理事会及び評議員会に提出している。評議員会は、理事定数の2倍を超える人数で組織されており、理事長を含め役員の諮問機関として私立学校法、寄附行為の規定に従い運営されている。

学校教育法施行規則に基づき教育情報を、また私立学校法に基づき財務情報及び監査報告書を短期大学及び学校法人のウェブサイトに公表・公開している。さらに、全学的な教育改革の取組みや改革の成果のほか、日々の学生の活動報告等の様々な教育情報をウェブサイト等で公開し、学内外の関係者への閲覧に適切に対応している。